

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503130		
法人名	(株)アサヒライフコーポレーション		
事業所名	グループホーム憩		
所在地	福山市山手町1385-1		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市平成台27-17-101
訪問調査日	平成27年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧山陽道に面し周囲には田園が広がり、懐かしい故郷を思い起こさせる風景と自然に恵まれた環境の中に、「グループホーム憩」があります。近隣には保育所や小中学校、公民館などがあり子どもたちや地域の人たちとの交流があり、町内行事への参加を通じて地域との関りを大切にしています。一人ひとりに応じた医療連携を構築し、入居者様が安心して暮らしてゆけるよう支援をしています。職員は「心の繋がり」を大切にし入居者様一人ひとりが、その人らしい尊厳に満ちた生活を安全で安心に笑顔でお過ごせるよう、介護支援をさせていただきます。また、地域の皆様の交流の場、情報交換や発信の拠点になれるよう職員一同力を合わせがんばっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山・田畑に囲まれ、どこか懐かしく癒しを感じさせる、自然に恵まれた環境にある。利用者の尊厳を第一に、安心して笑顔で過ごせるよう心のこもったケアを心がけている。経験豊富であり、多様な対応方法で利用者の思いを引き出すと共に、初期対応の充実により、家族の信頼を得ている。効果のあったケアについては、文章化し、職員全体で情報の共有化に努めている。リスクマネジメント会議により、利用者の環境やケア内容、食事状況や配薬の方法など常に検討し、安全で安楽な体制を築いている。運営推進会議では、民生委員・町内会長・介護保険課・包括職員・利用者家族等が参加し、(隣接する小規模多機能事業所と共に開催)行事報告や様々なテーマでの勉強会が行われたり、活発な意見交換や関係作りができ、地域のさらなる発展の場を担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をサービスの基本として捉え、理念を目標にケアの実践が出来るよう、いつも見える場所に掲示し、申し送りやミーティングで話している。	職員で考えた理念を掲示するとともに、ミーティング時に管理者が職員に確認している。問題があれば、理念に立ち返り、どうすれば達成できるか考えながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、地域の活動や、行事には積極的に参加をしている。職員は近所方たちと顔馴染みになっており、挨拶や声掛けしやすい関係が出来ている。	町内会に加入し、職員が清掃活動や集会にも参加している。地域行事(盆踊り・はね踊り・カラオケ大会)や中学吹奏学部とふれあいの場を持つ等、日々地域住民との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議には、ご家族、町内会(会長、福祉を高める会、民生委員、地域包括支援センター)などの代表者を招き勉強会、意見や情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、テーマごとの勉強会や行事の報告を行うことにより施設、地域ごとの考え方、問題点などを考える場になっており、事業所としてのサービス向上に繋げている。	民生委員・町内会長・介護保険課・包括職員・利用者家族等が参加して、隣接する小規模多機能事業所と共に2か月に1度の開催している。行事報告や様々なテーマでの勉強会が行われており、活発な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福山市の生活福祉課、障害福祉課、介護保険課とは連絡を密にすることで、8名の生活保護の方がた、自立支援医療費など入居者様の生活支援の充実に繋げている。	日常的に連携し、事業所の実情やケアの取り組みなどについて伝えている。利用者に応じて、生活上必要な書類の作成や申請が円滑に出来るよう、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	声掛けひとつで身体拘束になってしまう事を念頭に置き業務することを心掛けている。介護者の都合ではなく入居者様の意思を尊重することを優先しているが、問題があれば、ミーティングや勉強会で話し合い職員が等しく理解するよう努めている	利用者の状態に応じて、見守りの強化・利用者個々へ必要な手摺りの設置や、声掛けの工夫に努めている。職員と話しあう機会をもち、知識の向上やスキルアップにも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束は虐待に繋がる。介護者にその気は無くとも身体拘束、虐待になっている場合があり、第三者にはそう見得る場合もある、ことを踏まえ、日々の申し送りやミーティングで見過ごしの無いよう検証し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他の事業所と連携をとる中で、様々な状況により、成年後見人制度や社会福祉協議会の活用方法や、問題点を学びながら、憩の入居者様の支援に活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に説明を行い、問題点があれば入居前に解決、又は解決法を話し合い安心して入居していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族からの意見や要望は記録と申し送りにより、出来ることは直ぐに対応し、話し合いが必要な場合には、内容に応じ職員や管理者など関係者で話し合い、よりよい施設の運営に繋げている。	家族の来訪時や電話などで、要望を聴く機会を設けている。出された意見や要望は、職員で検討し運営に活かしている。利用者の要望は、散歩や入浴時などの時間にゆっくりと聴くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは個別、日々の申し送り、ミーティング、など様々な機会で見解や提案を受け取り、管理者は月に2回の本社での定例会議で職員からの提案や意見を発表し反映させている。	申し送りやミーティング等で、意見や提案・要望を聴いている。職員と管理者の風通しがよく、個別に聴く機会も多い。出された意見について考察し、可能な事は迅速に対応し、困難な場合は、問題を明確化し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各事業所の管理者、または副管理者、主任などで構成する全体会議を月に2回定期開催するなかで、職員が働きやすい職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の奨励とともに、『リスクの少ない安全なケア』を目指し、防災訓練やリスクマネジメントなどの勉強会、介護車両の安全講習会などを、定期的に数多く開くことにより、個々の職員に応じたレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所交流会や勉強会、イベントに参加したり、招くのとて交流を深めている。利用者情報の共有に繋がっており、地域の事業所間でのサービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り、入居されるまでに馴染みの関係を気づけるよう配慮している。ご本人が困っていること、好きなことや楽しいことをなど知ることからその人に寄り添った関係作りとサービスの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、ご家族の要望や思いを聞かせて頂き、その上で、施設として出来ること、出来ないこと。ご本人にとって良いこと、そうでない事などを説明し納得していただいている。施設と家族と一緒に「ご本人を支える」関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の意向や状況を善く理解した上で、入居のメリット、デメリット、タイミングなどを検討し、最適な方法選択できるよう努めている。条件が合わないときには他の事業所を紹介するなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が楽しみながら役割作業(洗濯物干し、たたみ、洗い物など出来ること)をしていただくことで、職員は感謝の気持ちを伝え、支えあっている関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の担当職員による手紙で入居者様の状況や様子を伝え、職員には出来ないが家族なら出来ること、家族にしか出来ないことを伝え協力をお願いしている。誕生日会や外出イベントへの参加を呼びかけ、ともに過ごせる機会を増やせるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人や家族からお話を伺い、家族の協力の下、馴染みの場所や馴染みの人との関係の維持に努めている。気軽な立ち寄り、来訪のしやすい雰囲気作りを心がけている。	家族の協力を得て、馴染みの理髪店や美容院を利用する事もある。また友人や知人の来訪があった時は、ゆっくり話ができるよう支援し、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様に一人ひとりの生活歴や個性を尊重し、落ち着いて過ごせる、場所や空間作りを心掛けている。入居者様が孤立することなく仲良く助け合って生活できるよう、職員が寄り添い時には壁になり、橋渡しになるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	多くの方が協力病院へ「入院」という形で退去されており、時には入居者様を伴ってお見舞いに行きやすい環境がある。他施設へ転居された方には、面会や季節ごとの手紙やはがきなどで近況を伝え合うなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や過去の情報を踏まえた上で、本人の思いや要望を汲み取りご家族にも相談しながら支援に繋げている。表情や動作を注意深く見守り、ご本人の気持ちを感じ取るよう心掛けている。	利用者との普段の会話や表情やしぐさなどから、思いや希望を聴き、意向の把握に努めている。家族からの情報や、得手・不得手をみながら、安楽なケアや対応について、職員全体で試行錯誤し、常に本人の気持ちを感じとる『意識』を持つよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、可能な限り家族や関係者から情報を集めておく。入居後も、本人、家族や知人友人など来訪者から「思い出話」を聞かせて頂き、よりよいケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や水分量、排泄、バイタルサインなどの健康管理の記録。服薬管理、日常の様子などを記録している。「いつ急変されるかも…」という認識を持ち、状態の変化に応じた細やかな対応を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画に基づき、ミーティング、アセスメントをしている。個々におけるケアプラン実施表に記録し、課題や問題点を意識しながらケアの向上に取り組んでいる。ご本人の変化に応じ、本人、家族、看護師、病院関係者と話し合い、介護計画を練り直している。	利用者・家族の要望や、主治医・看護師の意見を確認後、職員で検討し介護計画を作成している。ケアプラン実施表の利用により、問題点とプランの共有化と確認が容易である。見直しは3~6か月毎で、状況変化等があればその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護日誌、健康管理日誌、ケアプラン実施表など作成、記録している。毎日の申し送り、スタッフミーティング、勉強会などで定期的に検証し話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様にとって、安心できる場所が「憩」であり信頼できる人が「職員」だと思っていただけのように、一人ひとりの入居者様の「思い」に寄った支援ができるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や近隣の事業所との交流で培った繋がりのなかで、カラオケ大会、盆踊り、跳ね踊りなどのイベントへの参加や見学、移動図書館の利用、ボランティアや慰問の受け入れなど、入居者様一人ひとりが安心して楽しめるよう幅広い支援が出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族の希望を最優先している。その上でご本人が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。かかりつけ医との連携を保ち、家族、本人の要望に応じ紹介をしている。	利用開始時にかかりつけ医を確認し、利用者・家族の意思を尊重した納得の主治医となっている。必要時、歯科の往診や皮膚科の受診をすすめる等、適切な医療が受けられるよう支援している。服薬内容や病状等は申し送りノートに記載し、職員間の情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、施設内の看護職員、関係病院の担当看護師と常に情報交換を行い、必要に応じ受診、往診、入院など適切かつ迅速に対応できる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に施設側が中心となり、医師、看護師、家族との関係づくりを行っている。必要に応じ、受診、入退院時には管理者が同行して家族をフォローしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居が決まった時点で、基本的な方針やリスクを想定した対応の説明をし同意を得るようにしている。入居者様の状況に応じ、医師、看護師と相談をし施設として出来ること、出来ないことを見極めながらご本人、家族に理解していただけるよう努めている。	利用開始時に、利用者・家族に出来る事と出来ない事等の基本方針を説明し、了解を得ている。利用者の状態に応じて、家族と主治医・看護師及び職員が話し合っ方針を共有し、連携態勢をとりながらチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要ときに手に取れるよう、急変時の対応マニュアルを各部署に配置している。年2回、第一次救急救命の勉強会を実施、また、リスクマネジメント勉強会(毎月1回)、ミーティング、日々の業務の中で看護職員の指導の下、実践力を磨いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練と勉強会を実施している。地域の有識者の方々と定期的に情報交換をし地震や津波などの災害対策について話し合っており、「助け合う」協力体制を築いている。	災害対策の勉強会の開催や、年に2回、火災避難訓練を実施している。消防署立ち会いのもと、救急救命法、消火訓練が実施され、備えに努めている。また、地域の防災訓練に管理者が参加するなど、地域との協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみやすい態度となれなれしい態度の区別をしっかりと理解し、入居者様の尊厳を大切に、誇りやプライバシーに配慮した声掛けや対応をするよう心掛けている。	利用者の尊厳を第一に、本人が望む心のこもった声掛けができていないか、そうでない声掛けになっていないか、管理者は常に職員に問いかけている。脱衣場にスクリーンを設置し、プライバシーに配慮しながら、安全な見守りが出来るよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誰にも遠慮や心配をすることなく、入居者様を選んだり、決めたりできる機会をより多く持っていただけるよう、個々のペースにあわせて働きかけるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	18名の入居者様がそれぞれの思いとペースでゆったりと楽しく過ごせるよう担当職員それぞれに創意工夫、切磋琢磨しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合わせて理髪店や美容院への外出支援を行い、美容院の訪問ボランティアを招いている。衣類やアクセサリは危険が無い限りご本人を選んだり、職員と相談しながら楽しくできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普通、一口、刻み、ミキサーと一人ひとりの身体状況に合わせて食事を提供している。テーブル拭き、食器洗い、お盆拭き、食材の下ごしらえ、買い物など、お任せできること、一緒に出来ること、など個々に合わせて柔軟な対応をするよう心掛けている。	楽しそうに食べているか、安全・安楽に食事が出来ているか？を意識し、表情を観察するよう努めている。盛り付けの色採りに配慮したり、ベランダでおやつを食べたり、恵方巻作り・餅つき等、五感を刺激した楽しみを得られるような食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医、看護師、場合によりご家族とも相談し、食事や水分の質、量などをそれぞれの好みに合わせて無理なく提供できるよう配慮している。食器の色や形状、飲食物の形状も一人ひとりに合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご家族には、説明し同意を得た上で、歯科医、衛生士の指導の下、それぞれの状態とペースにあわせ、口腔ケアを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレにはそれぞれのADLに応じ使えるよう、可動式手摺りを設置。ポータブルトイレ、パットや紙パンツなどご本人の気持ちや体の負担に配慮しつつ、できる限りトイレでの排泄が行えるよう声掛けや誘導、見守り、介助の支援に努めている。	排泄パターンや排泄時の様子を把握し、利用者の身体の負担が減少するよう、声掛け・対応を工夫し自立支援に努めている。夜間は、睡眠を優先しながら、利用者一人ひとりに応じた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事や、乳製品のもの、自家製のゼリーなどをお出しする一方、楽しく身体を動かして運動していただけるよう体操や、レクレーションを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望を優先して、入浴のスケジュールを組んでいる。ゆっくり安全に安心して入浴を楽しめるよう、その方の気持ちと体調(バイタルサイン)を重視している。他者の見守り、介助を含め入浴時は職員3人体制を厳守している。	週に2~3回の入浴支援をしている。体調不良等の状況によっては、清拭や足浴などの支援を行い、入浴困難時は、声掛けのタイミングや対応を工夫する等、清潔の保持が出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれにお気に入りの場所、落ち着ける場所があり、昼食後は居室やソファで午睡を摂られる方も多く、職員は危険や急変の無いよう見守りや必要に応じて声掛けや介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師からの指示や情報は文書で確認し、職員同士声掛け確認しながら業務に当たる。目的や服用方法に応じ、保管場所や取り扱いにも取り決めがあり、遵守している。細かい変化でも記録し、必要に応じて看護師、医師に報告、相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定時のおやつ以外にも、希望に応じ飴や駄菓子、好みの飲み物を用意している。一人から少人数、集団で楽しめる事を職員は試行錯誤しながら、入居者様が飽きないよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別では日常的に日向ぼっこ、散歩や買い物、外食など、職員や家族と出かける機会は多い。花見、ばら祭り、盆踊り、菊花展などの外出は喜ばれている。	日常的に、散歩や買い物、移動図書館の利用などの支援をしている。本人の希望を把握し、誕生日に外食するなど楽しみな時間を設けたり、家族の協力を得て、花見などの外出支援をしている。外に出掛けられない利用者については、気分転換のため、ドライブの支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にご一緒できる方には、ご本人の希望に応じて。対応はそれぞれで、ご自分で所持管理し買い物を楽しまれたり、値段をみて品物を選び、支払は職員に任せる…など入居者様に合わせた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には入居者様の意思を尊重するがご家族や連絡先の事情にも十分配慮し、トラブルや混乱無く、円滑なやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間や脱衣場入り口にはカーテンやブラインドを用意しプライバシーに配慮し、その人のペースで過ごせるよう工夫している。照明、温度、湿度、臭気にも気を配り、不快感の無い空間づくりに努めている。季節の装飾品や展示物を配置し居心地善く過ごしていただけるよう努めている。	日当たりのよいリビングで、テレビを見たり、一人ひとりが思いのまま過ごせる空間があちこちにあり、居心地良く過ごせるような配慮がある。利用者の状態に合わせて、廊下・トイレの手摺りを設置し、安楽なケアが提供できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様一人ひとりが落ち着いて過ごせる居場所、安全に移動できる空間を確保し、転倒、転落などの危険に配慮しソファやテーブルを配置している。入居者様の必要に応じは配置換えを行うこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様にとって思い出や愛着のあるもの、家族写真や置物などを居室に置いている。そのものにまつわる「思い出」をご本人や家族から伺い、「居心地善く過ごせる場所」づくりに役立っている。	居室は、利用者の気にいったものや飾りを置いたり、備え付けの洗面台を設置し、居心地良く過ごせる工夫をしている。利用者が安全・安楽に過ごせるように、必要時、手摺りやポータブルトイレの設置、床面の工夫などに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりについての心身の様子を短期、中期、長期的な視野で検証し検討を重ね、必要に応じ住環境やケアのあり方を再検討し、自立支援に努めている。		